

2024. 8. 5

【米国雇用統計（24年7月）】

雇用者数は市場予想を下回り、失業率は上昇 ～市場は大幅利下げを織り込むも、今回の結果だけでの判断は早計～



経済調査部 エコノミスト
前田 和孝

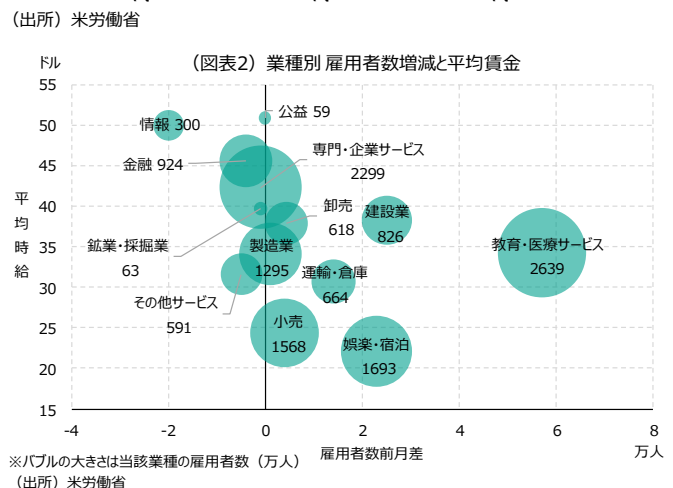
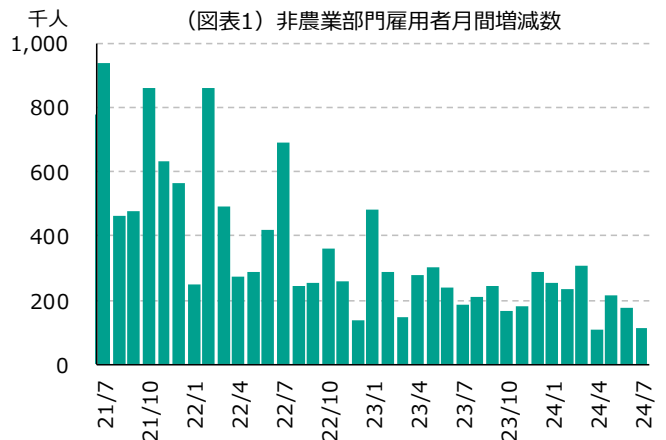
ポイント

- 7月の非農業部門雇用者数は前月比+11.4万人と、市場予想（同+17.5万人）を大きく下回った。トレンドを示す3ヵ月後方移動平均も2ヵ月連続でコロナ禍前の5年平均値を下回った
- 失業率は4.3%と前月から0.2%ポイント上昇し、景気後退入りを示唆する「サム・ルール」の発動基準を満たした
- 市場では、発表直後に米金利は低下し、米連邦準備制度理事会（FRB）による9月の0.5%の利下げを織り込んだ。ただし、大幅利下げ実施には労働力人口の増加やハリケーンの影響を見極める必要

1. 雇用者数は市場予想を大きく下回る

7月の非農業部門雇用者数は前月比+11.4万人と、市場予想（同+17.5万人）を大きく下回った。過去分は、5月が同+21.8万人から同+21.6万人へ、6月が同+20.6万人から同+17.9万人へ、2ヵ月合計で2.9万人の下方修正となった（図表1）。非農業部門雇用者数のトレンドを示す3ヵ月後方移動平均は前月比+17.0万人と2ヵ月連続でコロナ禍前の5年平均値（同+20.0万人）を下回った。

今月の雇用者数の伸びを部門別に見ると、物品生産部門（6月：前月比+1.1万人→7月：同+2.5万人）は前月から拡大したものの、民間サービス部門（同+12.5万人→同+7.2万人）、政府部門（同+4.3万人→同+1.7万人）が鈍化した。業種別に見ると、物品生産部門では、鉱業・採掘業（同±0.0万人→同▲0.1万人）はマイナスだったが、製造業（同▲0.9万人→同+0.1万人）はプラスに転じ、建設業（同+2.0万人→同+2.5万人）は伸び幅が拡大した（図表2）。民間サービス部門では、10業種中5業種が増加、5業種が減少となった。プラス幅が大きかったのは、教育・医療サー



ビス（同+7.9万人→同+5.7万人）、娯楽・宿泊（同+0.1万人→同+2.3万人）、運輸・倉庫（同+2.2万人→同+1.4万人）などである。一方、情報（同+0.1万人→同▲2.0万人）、金融（同+1.0万人→同▲0.4万人）、専門・企業サービス（同+0.2万人→同▲0.1万人）といった業種はマイナスだった。情報は、過去12カ月中7カ月で雇用減となっている。先日インテルが全従業員の約15%にあたる約1.5万人以上の人員削減を発表するなど、大手テクノロジー企業を中心に採算の合わない業務をスリム化する動きが継続している。専門・企業サービスの内訳で、労働市場全体の先行指標となる人材派遣サービス（同▲2.3万人→同▲0.9万人）は2ヵ月連続のマイナスとなった。

政府部門では、連邦政府（同+0.2万人→同+0.1万人）、州政府（同+1.6万人→同+0.7万人）、地方政府（同+2.5万人→同+0.9万人）のいずれも前月から伸びが鈍化した。

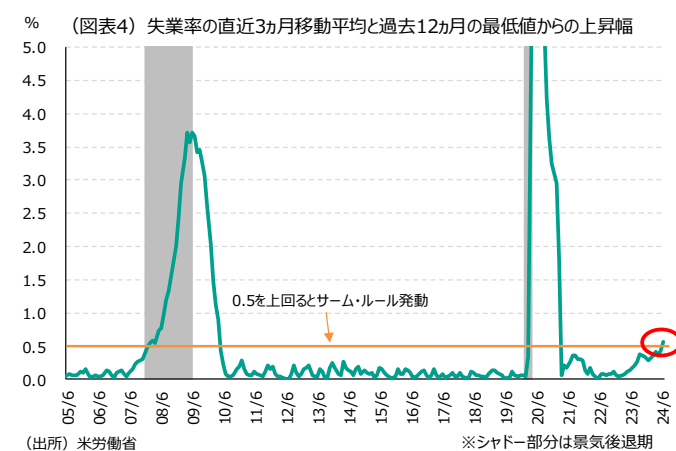
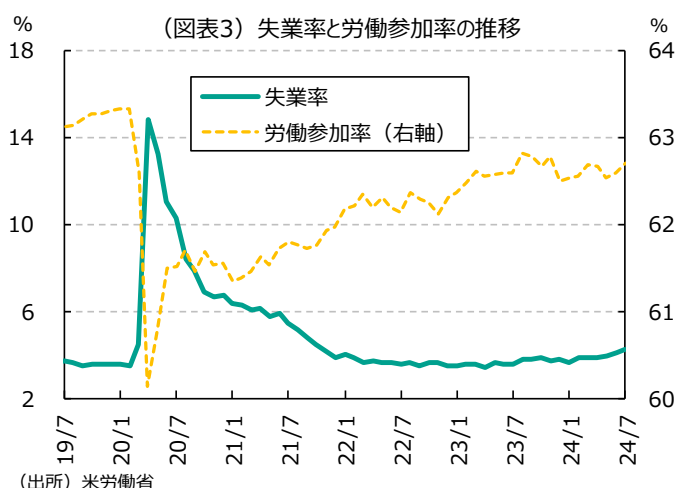
2. 失業率は4ヵ月連続の上昇

7月の失業率は4.3%と前月から0.2%ポイント上昇した（図表3）。これで4ヵ月連続の上昇となり、2021年10月以来の高水準となった。また、失業率の直近3ヵ月移動平均と過去12ヵ月の最低値との乖離幅が0.53ポイントまで上昇し、「サム・ルール」（乖離幅が0.5ポイントを上回ると景気後退局面入り）の発動基準を満たした（図表4）。非自発的パートタイマーが前月比+34.6万人となっており、広義の失業率（U6失業率、就職を断念して労働市場から退出した人や、非自発的パートタイマーなどを失業者を含む）は7.8%と前月から0.4%ポイント上昇した。

今月は、労働力人口が前月比+42.0万人となり、労働参加率は62.7%で前月から0.1%ポイント上昇した。労働力人口の内訳を見ると、就業者数が同+6.7万人、失業者数は同+35.2万人といずれも増加した。失業者を理由別に見ると、失職者が同+31.4万人、離職者が同+10.3万人、労働市場への再参入者が同+6.6万人、労働市場への新規参入者が同▲5.8万人となり、今月は主に失職者や離職者の増加が失業者の増加につながった。失職者の内訳では、一時帰休者が同+24.9万人、一時帰休者以外が同+6.5万人（うち、恒久的失業者：同+3.9万人、雇用期間満了者：同+2.7万人）となっており、一時帰休者、恒久的失業者のいずれも増加した。また、失業期間別の失業者数を見ると、27週以上が153.5万人と5ヵ月連続で増加している。失業者1人当たりの求人数が1.20件（6月）と、コロナ前の2020年2月の水準を下回るまで低下していることなどを踏まえると、少しずつ職は見つけづらくなってきているとみられる。

3. 時間当たり賃金の伸びは鈍化

週平均労働時間は34.2時間と、前月（34.3時間）から減少した。部門別では、民間サービス部門（6月：33.2時間→7月：33.2時間）は変わらなかったが、物品生産部門（同40.0時間→同39.6時間）が減少した。



物品生産部門では特に建設業（同 39.4 時間→同 38.8 時間）の落ち込みが大きかった。7 月の調査期間中にハリケーン・ベリルがテキサス州に上陸しており、これが労働時間の減少につながった可能性がある。総労働投入時間（雇用者数×週平均労働時間）は、雇用者数の伸びが鈍化し、労働時間が減少したため、前月比▲0.2%と3ヵ月ぶりのマイナスとなった。

時間当たり賃金は前年比+3.6%と、2ヵ月連続で伸びが鈍化した（図表5）。前月比でも+0.23%と、前月（同+0.32%）から鈍化し、過去12ヵ月平均（同+0.31%）も下回った。部門別では、民間サービス部門（6月：前月比+0.23%→7月：同+0.26%）は伸びが拡大する一方、物品生産部門（同+0.45%→同+0.20%）は鈍化した。内訳を見ると、物品生産部門では、建設業（同+0.24%→同+0.39%）は前月から伸びが拡大したものの、鉱業・採掘業（同+0.28%→同▲0.23%）はマイナスに転じ、製造業（同+0.56%→同+0.12%）は伸びが鈍化した。製造業では特に耐久財（同+0.81%→同+0.14%）の伸びが大きく鈍化した。一方、民間サービス部門では、10業種中6業種で拡大、4業種で鈍化もしくはマイナスとなった。小売（同+0.12%→同▲0.08%）は低下したほか、教育・医療サービス（同+0.32%→同+0.23%）、娯楽・宿泊（同+0.32%→同+0.23%）は伸びが鈍化した。一方、金融（同▲0.04%→同+0.35%）はプラスに転じ、情報（同+0.40%→同+0.73%）は伸びが拡大した。情報については人員削減の結果、生産性の高い業務に従事する従業員の割合が高まり、賃金が押し上げられている可能性がある。



4. 労働力人口の増加やハリケーンの影響を見極める必要

7月の雇用統計では、非農業部門雇用者数の伸びが市場予想を下回った。また、失業率は前月から上昇し、「サム・ルール」の発動基準を満たした。市場では、景気後退入りが意識されたことなどから発表直後に米金利は低下し、米連邦準備制度理事会（FRB）による9月の0.5%の利下げを織り込んだ。ISM景況感指数を見ると、製造業は7月に46.8と4ヵ月連続で低下するなど、企業の景況感は冴えない。特に、内訳である雇用指数を見ると、43.4と前月から5.9ポイント低下している。非製造業については本日7月分が発表されるが、6月は48.8と好不況の境目である50を下回っている。

もっとも、パウエルFRB議長が指摘している通り、サム・ルールはあくまで統計的な規則性であって、今後起こることを保証するものではない。失業率の内訳を見ると、失業者は増えてはいるものの、労働力人口や就業者も増えており、新たに仕事を探し始めた人が増えていることが示唆される。また、一時帰休者が2020年12月以来の増加幅となっており、ハリケーンの影響が出ている可能性もある。これに関しては、16日に公表される州別の失業者のデータを確認する必要がある。雇用統計の結果を受け、シカゴ連銀のグループビー総裁は「単月の数字に過剰反応したくない」と述べ、次回9月の米連邦公開市場委員会までに発表されるデータを慎重に見極める姿勢を示している。求人件数の減少傾向が継続していることなどから、今後も労働需給は緩和傾向で推移するとみられるが、今回の雇用統計だけで0.5%の利下げ実施を見込むのはやや早計に思える。現段階で筆者は、FRBは9月に0.25%の利下げを実施するとの予想を維持する。

本レポートに関するご取材やお問い合わせは以下までご連絡ください

明治安田総合研究所 エコノミスト 前田 和孝

電話番号：03-6261-7947

e-mail：ka3-maeda@myri.co.jp

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●発行元●株式会社明治安田総合研究所 〒102-0073東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411